

- 問1 7世紀初め、聖徳太子は中国の進んだ制度や文化を取り入れることを目的として、小野妹子らを隋（ずい）へ派遣しました。この外交政策の名称として正しいものを、次のうちから選んでください。（2015年 大分県公立入試 類似）
1. 遣明使
 2. 朝鮮通信使
 3. 遣唐使
 4. 遣隋使
- 問2 ある歴史上の人物の業績をまとめた資料に、「蘇我氏を打倒して新しい国家体制の基礎を築いた後、滋賀県の近江大津宮で即位した」という記述があります。この人物が後に即位した名称として正しいものはどれですか。（2020年 茨城県公立入試 類似）
1. 聖武天皇
 2. 天智天皇
 3. 桓武天皇
 4. 推古天皇
- 問3 645年に始まった大化の改新を中臣鎌足とともに主導した中大兄皇子は、後に天皇として即位し、わが国初となる全国的な戸籍を作成するなどの政治改革を推進しました。この人物の名称として正しいものを選んでください。（2018年 愛媛県公立入試 類似）
1. 天智天皇
 2. 聖徳太子
 3. 桓武天皇
 4. 天武天皇
- 問4 7世紀前半の東アジアでは、中国を統一した唐が、朝鮮半島の北部に位置する国を攻撃するなど、軍事的な緊張が高まっていました。このような国際情勢の変化は、日本において強力な中央集権国家を目指す大化の改新が起こる大きな要因となりました。このとき、唐の攻撃を受けた朝鮮半島北部の国名を答えなさい。（2021年 熊本県公立入試 類似）
1. 百済
 2. 新羅
 3. 渤海
 4. 高句麗
- 問5 飛鳥時代、推古天皇の摂政であった聖徳太子は、中国を統一した隋の高度な制度や文化を取り入れるために使節を派遣しました。607年にこの使節（遣隋使）として中国へ渡った人物の名前として正しいものはどれですか。（2022年 栃木県公立入試 類似）
1. 小野妹子
 2. 鑑真
 3. 足利義満
 4. 中大兄皇子
- 問6 飛鳥時代に聖徳太子（厩戸皇子）が定めた「十七条の憲法」の内容と、その対象について説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2015年 鹿児島県公立入試 類似）
1. 日本で初めての本格的な律令であり、天皇を中心とした行政組織の仕組みや刑罰について詳しく定められている。
 2. 一般の民衆に対して年貢の納め方や犯罪の取り締まりについて説いたもので、儒教の教えを広めるために作られた。
 3. 役人が守るべき道徳や心得を示したもので、和を大切にすることや天皇の命令には必ず従うべきことなどが記されている。
 4. 武士に対して領地に関する争いを裁くための基準を示したもので、前例や道理に基づいて公正に裁判を行うことを目的としている。
- 問7 飛鳥時代において、聖徳太子（厩戸王）を摂政に任命し、協力して天皇を中心とした国づくりを進めた日本初の女性天皇は誰ですか。（2026年 静岡県公立入試 類似）
1. 持統天皇
 2. 天智天皇
 3. 天武天皇
 4. 推古天皇
- 問8 壬申の乱に勝利して即位し、律令に基づく天皇中心の国づくりを強力に進めた人物は誰ですか。（2024年 岩手県公立入試 類似）
1. 桓武天皇
 2. 推古天皇
 3. 聖武天皇
 4. 天武天皇
- 問9 飛鳥時代から現代までの日本の歴史を時系列で並べた際、聖徳太子が「十七条の憲法」を制定した時期よりも「後」の出来事であり、かつ奈良時代に行われた事柄として正しいものはどれですか。（2024年 静岡県公立入試 類似）
1. 日本で最初の女性天皇として、推古天皇が即位し政治の基盤を整えたこと
 2. 安土桃山時代を象徴する、豪華な装飾が施された城郭が各地に築かれたこと
 3. 自分で新しく切り開いた土地を永久に自分のものにすることを認める「墾田永年私財法」の施行
 4. バブル経済が崩壊し、長期にわたる景気の後退が始まったこと
- 問10 古代の権力争いに関する記録において、蘇我氏が渡来人の持つ高度な技術や知識を背景に勢力を伸ばし、対立する物部氏を退けて政治の実権を握った背景について、正しい説明はどれか。（2025年 岡山県公立入試 類似）
1. 蘇我氏は独自の神事による統治を目指し、仏教を広めようとした渡来人の一族を追放した
 2. 蘇我氏は武家社会の到来を予見し、幕府を開くために伝統的な公家勢力であった物部氏を制圧した
 3. 蘇我氏は守護大名としての地位を確立するため、山名氏と結んで応仁の乱を引き起こした
 4. 蘇我氏は大陸の新しい宗教や文化を国家運営に活用しようとし、反対派を排除して中央集権化を進めた
- 問11 飛鳥時代、聖徳太子（厩戸王）が推古天皇の摂政として政治を行っていた時期に定められた「冠位十二階」の制度について、その目的を説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2019年 長崎県公立入試 類似）
1. 仏教の教えを政治の基本とし、国民全体の道徳を高めるため
 2. 有力な豪族に対し、代々特定の役職に就く特権を認めるため
 3. 戸籍を作成して人々に土地を割り当て、税の徴収を確実にするため
 4. 家柄にとらわれず、能力や功績のある人物を役人に登用するため
- 問12 用明天皇の皇子であり、叔母にあたる推古天皇の摂政として、蘇我馬子と協力しながら政治を行った人物は誰か。（2020年 熊本県公立入試 類似）
1. 聖徳太子
 2. 藤原不比等
 3. 中大兄皇子
 4. 大海人皇子
- 問13 7世紀後半、朝鮮半島で滅亡した百済を復興させるために日本が送った軍が、唐と新羅の連合軍に大敗した戦いを何というか、名称を答えなさい。（2021年 三重県公立入試 類似）
1. 長篠の戦い
 2. 壇ノ浦の戦い
 3. 桶狭間の戦い
 4. 白村江の戦い
- 問14 「第一条に、和をなによりも大切なものとする」「第二条に、仏・法・僧の三つの宝を敬うこと」「第三条に、天皇の命令を承ったときは必ず謹んで従うこと」といった内容が記されている資料の、歴史的な背景として最も適切なものはどれですか。（2023年 長崎県公立入試 類似）
1. 遣唐使によってもたらされた最新の法律制度をそのまま導入し、法治国家を目指した。
 2. 仏教を国教として定め、寺院が政治に介入することを認める特権を与えた。
 3. 豪族同士の争いを鎮め、天皇を中心とした中央集権体制の基礎を築こうとした。
 4. 武士が政治の実権を握ったため、朝廷の権威を取り戻すための軍事的な規則を定めた。
- 問15 聖徳太子が活躍した7世紀初め頃の政治の様子について、制度の内容とその背景を記述した文として正しいものはどれですか。（2019年 長崎県公立入試 類似）
1. 律令に基づいて全国を国・郡・里に分け、中央集権的な地方支配体制が完成した。
 2. 冠の色によって12段階の位を示し、個人の功績に応じて地位を与える制度が整えられた。
 3. すべての土地を国有とする「公地公民」の原則が確立され、農民に口分田が与えられた。
 4. 地方の有力者が「国司」として任命され、中央から派遣された役人と共に土地を治めた。

答え合わせ・解説

問1	答え 4 遣隋使	聖徳太子は、推古天皇の摂政として政治を行う中で、小野妹子らを中国の隋へ派遣しました。これが遣隋使です。当時、中国は巨大な帝国として高度な文明を誇っており、日本はそこから法律や政治制度、仏教などの文化を直接学ぶことで、国力を高めようとしていました。
問2	答え 2 天智天皇	中大兄皇子は長らく皇太子の立場で改革を主導していましたが、後に即位して天智天皇となりました。天智天皇は日本最古の全国的な戸籍とされる「庚午年籍」を作成するなど、中央集権化をさらに進めたことで知られています。
問3	答え 1 天智天皇	飛鳥時代、中大兄皇子は蘇我氏を打倒して大化の改新を断行しました。その後、天智天皇として即位すると、わが国最初の全国的な戸籍である「庚午年籍（こうごねんじやく）」を整備しました。これは、人民を国家が直接支配し、税の徴収を安定させるための重要な基盤となりました。
問4	答え 4 高句麗	聖徳太子の死後、隋に代わって中国を統一した唐は、領土拡大のために朝鮮半島北部の高句麗へ繰り返し遠征を行いました。この強大な帝国の出現と軍事的圧力は、当時の日本にとって大きな脅威となり、国内の結束を固めて天皇中心の強力な国家体制を整える必要性を認識させました。こうした背景から、中大兄皇子らによって大化の改新が断行されることとなりました。
問5	答え 1 小野妹子	聖徳太子は、中国の「隋」に「遣隋使」を派遣して大陸の優れた文化や政治制度を学ぼうとしました。607年には小野妹子が使節として送られ、隋の皇帝である煬帝に国書を届けました。これ以前の時代のように中国の皇帝に臣下として仕えるのではなく、主権国家として交流を図ろうとした重要な出来事です。
問6	答え 3 役人が守るべき道徳や心得を示したもので、和を大切にすることや天皇の命令には必ず従うべきことなどが記されている。	聖徳太子は、推古天皇の摂政として中央集権国家の建設を目指しました。十七条の憲法は、当時の豪族たちに天皇に仕える「役人」としての自覚を持たせるために制定されたものです。儒教や仏教の思想を取り入れ、第一条では「和をもって貴しとなす（争いをせず協力し合うこと）」、第三条では「詔（天皇の命令）を承りては必ず謹め」と記し、天皇を中心とした政治体制の基礎を築こうとしました。
問7	答え 4 推古天皇	592年に即位した推古天皇は、甥である聖徳太子を「摂政」という役職に就け、共同で政治を行いました。この時期には冠位十二階や十七条の憲法の制定、遣隋使の派遣など、中国（隋）の制度を取り入れた重要な政策が次々と打ち出されました。
問8	答え 4 天武天皇	大海人皇子は壬申の乱で勝利を収めた後、天武天皇として即位しました。天武天皇は、律令の編纂に着手したり、それまでの「大王」に代わって「天皇」の称号を本格的に使用し始めたりするなど、強力な指導力を発揮して国家の基盤を固めました。
問9	答え 3 自分で新しく切り開いた土地を永久に自分のものにすることを認める「墾田永年私財法」の施行	十七条の憲法は7世紀初頭の飛鳥時代に制定されました。これに対し、墾田永年私財法は8世紀（743年）の奈良時代に制定された法令であり、時代順として後に位置します。推古天皇の即位は憲法制定の前提となる出来事であり、城郭の建築やバブル崩壊はそれよりもさらに数百年から千年以上後の出来事です。当時の社会状況の変化を時代区分ごと理解することが重要です。
問10	答え 4 蘇我氏は大陸の新しい宗教や文化を国家運営に活用しようとし、反対派を排除して中央集権化を進めた	当時の蘇我氏は、渡来人と深く結びつくことで先進的な技術や仏教という新しい思想を政治に取り入れ、それまでの氏族制度に基づいた政治を打破しようと試みました。これに対し、伝統的な儀式を司ることで地位を維持してきた物部氏は、自身の権益を守るために仏教受容に反対しました。蘇我氏の勝利は、後の聖徳太子による改革や、仏教を中心とした国家体制の整備に大きく影響を与えました。
問11	答え 4 家柄にとらわれず、能力や功績のある人物を役人に登用するため	それまでの日本の政治では、特定の氏族が代々決まった役職を引き継ぐ「氏姓制度」が中心でしたが、聖徳太子は個人の能力を重視するこの制度を導入しました。これにより、天皇に従順で有能な人材を役人として集め、天皇中心の国づくりを進める狙いがありました。選択肢にある土地の割り当ては、後の「班田収授法」の内容です。
問12	答え 1 聖徳太子	推古天皇の時代に摂政という重要な役職に就き、豪族の蘇我馬子とともに改革を進めました。家柄に関係なく才能ある人物を登用する冠位十二階を定めるなど、天皇を中心とした国家体制の整備に尽力した人物です。
問13	答え 4 白村江の戦い	663年に朝鮮半島の白村江で行われたこの戦いは、中大兄皇子（のちの天智天皇）の時代に起こりました。日本は伝統的に友好関係にあった百済を支援しましたが、唐と新羅の強力な連合軍の前に大敗を喫しました。これにより、日本は朝鮮半島における影響力を失うこととなりました。
問14	答え 3 豪族同士の争いを鎮め、天皇を中心とした中央集権体制の基礎を築こうとした。	当時の日本は有力な豪族が勢力を争っており、政治の混乱が続いていました。聖徳太子は、役人が守るべき道徳や心得を示すことで、豪族たちの対立を抑え、天皇を中心としたまとまりのある国を作ろうと考えました。仏教や儒教の教えが取り入れられているのは、それらが普遍的な倫理観として、豪族を教化し国家を統合するのに適していたためです。
問15	答え 2 冠の色によって12段階の位を示し、個人の功績に応じて地位を与える制度が整えられた。	冠位十二階は、位によって冠の色を分けることで、宮中における序列を視覚的に明確にした制度です。これは個人の能力を評価する仕組みであり、世襲によって地位が決まっていた当時の豪族主導の政治を改めようとしたものです。他の選択肢にある国司の設置や公地公民などは、大化の改新以降の「律令国家」へと向かう過程で整備された仕組みです。